



1.2. 平和の礎に刻まれた犠牲者に祈りを捧げ花を手向ける遺族ら／ 3. 慰霊の日、朝早くから多くの戦争体験者や遺族らが訪れ、花や供物を捧げる姿が絶えることはなかった。／ 4. 慰霊の日に灯された「平和の火」／ 5. 平和の礎に刻まれた日本、米国、英国、朝鮮半島、台湾の5カ国・地域の戦没者を表す5本の「平和の光の柱」／ 6. 魂魄の塔で手を合わせる男性とその孫。命の尊さ、戦争の悲惨さを次代に伝えるため、毎年魂魄の塔を訪れている。／ 7. 「沖縄全戦没者追悼式」で正午に黙祷をする参列者

恒久平和を願う祈りに包まれて

今年で沖縄戦終結から75回目の夏を迎えます。新型コロナウイルス感染症の影響により、例年開催されている追悼行事が中止または規模の縮小を余儀なくされましたが、沖縄戦の体験を風化させることなく次代へ継承していくため、市内各地ではさまざまな取り組みが行われました。

6月22日、平和祈念公園では平和の思いを込め、平和の礎に刻まれた5つの地域の戦没者を表す5本のサーチライトが夜空を照らす「平和の光の柱」が実施されました。

6月23日、「慰霊の日」は沖縄全戦没者追悼式が平和祈念公園で開催され、正午に黙とうが捧げられました。当日は、平和祈念公園や魂魄の塔など市内各地の慰霊碑にも朝早くから多くの戦争体験者や遺族らが絶えることなく訪れ、刻まれた犠牲者の文字をなぞり、線香や花を手向けていました。戦争の悲惨さや命の尊さを子や孫らに伝える姿が多くみられた「慰霊の日」は、恒久平和を願う祈りに包まれていました。

